

全仏

6 / 55



朝、目がさめる。空は晴れているようだ。今日一日の無事を願い手を合わせる。
仏壇に線香を供え先祖に手を合わせる。家族が、湯気の出ているみそしる、白い御飯の特有のにおいが流れる食卓を前に、そろって手を合わせていただく。

こんな朝の繰り返しが昔しの日本ではあたりまえだった。
いまは家族がすすみ、手を合わせる機会も少くなり、一日の無事を祈ることなどないであろう。もちろん仏壇のない家も多いし、家族そろっての朝食もあまりない。
家族、日本、世界どこをとって

もせわしなく手を合わせ落ちつく時がないのだろうか！
死者を送る霊柩車が通っても道ゆく人々は知らぬ顔だ。電柱のかけでお年寄りがそっと手を合わせ見送っていた。

(T)

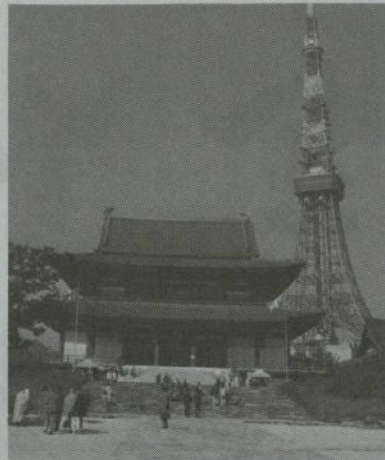
行

シリーズ③ 念仏行脚(浄土宗)

(解説8面に)

全日本仏教会

第27回全日本仏教徒会議



期日 10月31日～11月1日
場所 浄土宗大本山 増上寺

第二十七回全日本仏教徒会議は、昭和五十五年十月三十一日、十一月一日の両日にわたって、東京・芝の浄土宗大本山増上寺（藤井実心法主）において全日本仏教会の主権により行なわれることとなった。
特に本年の大会は、ここ数年の県仏主催の大会と違い、大会のあり方や内容などについて準備会により討議を重ね開催される意向である。

防ごう非行、助けよう立ち直り

第三十回社会を明るくする運動

法務省で主催する「社会を明るくする運動」は第三十回をむかえる。これについて日本宗教連盟（全仏など五団体）では事業計画の一環として協力しているが先般「第三十回社会を明るくする運動」の実施要綱が、中央実施委員会より送付され、協力依頼がありました。全仏加盟の宗派、県仏、団体におきましては、この運動が広く社会に浸透しますようご協力をお願い申し上げます。

今回の重点目標は「青少年の非行防止と更生の促進」で、青少年の非行がま

ます多様化しつつある現在、これに対処すべく、地域住民の諸活動を組織的に推進することにより、青少年の更生促進を図ろうとするものである。期間は七月中となっている。宗教連盟の他に教護師連盟、保護師連盟なども協力している。

全仏 三専門委員さまる

全仏の三専門委員会（組織・国際・文化）は、任期満了に伴い左記のように新委員が決定した。（任期二年）

【組織専門委員会】

- 新井智清、大多喜義忍、久保肇太清、河野亮永、小林昭延、桜井大乗、神野真一、高辻田雄、土持良栄、永倉嘉文、花木義光、畑直孝、美濃部薫一、鈴木盡孝、木全力

銀座通りを念仏行進

新橋で難民救援募金

東南アジア難民に愛の手を」と大正大学在籍の浄土宗教職員と学生百二十名が四月十九日に銀座、新橋で托鉢を行なった。これは善導大師一千三百年遠忌慶讃「念仏大行進」として実施されたもので

【国際専門委員】

- 麻布照海、青木孝彰、伊東堅純、織内七郎、長田順海、川島宏之、黒田武志、近藤隆敏、佐伯真光、佐藤良純、奈良康明、西村輝成、花山勝友、松海弘道、村野宣忠、望月良晃、柳了堅、山口貴美子

【文化専門委員】

- 井上日宏、石谷智範、伊藤完夫、岩畑至道、金岡秀友、門屋大寿、榊原帰逸、白川良純、島田喜久子、塩入亮達、宝田正道、中根専正、真溪義貫、摩尼清之、武藤義一、若林隆光

関西事務局人事

- 事務総長 千坂 精道 妙心寺派
組織部長 小沢 照禪 智山派
国際部長 小林 忍成 京都府仏
文化部長 梶原 隆也 浄土宗
教化部長 広島 昭心 大谷派
審議部長 小泉 宗和 本願寺派
総務部長 二株 明生 妙心寺派
（事務局）右京区花園妙心寺町 妙心寺派宗務本所内

あるが、新橋駅前では街頭募金を行ない道ゆく人々に難民救済を呼びかけ、続いて増上寺まで念仏行脚を行なった。

なお、増上寺において念仏大行進の監督をつとめた宮林大正大教授と仏青の若林会長より募金活動によせられた浄財二十六万余円が、全仏の日野事務総長に手渡され、難民救援金として送られる。

イスラムの国々

(上)

中央大学教授 嶋田襄平

預言者マホメット

イスラムは、アラビア半島のメッカに生まれ育ったマホメットが、六一〇年、唯一の神アラーの啓示を受けて創唱した一神教で、その信者をムスリムという。その後アッラーの啓示は、六三三年にマホメットが世を去るまで彼に下り続け、六五〇年ごろ、この啓示の記録を二冊の書物に編んだものが、イスラムの聖典「コーラン」である。

多神教の世界では、神々にそれぞれの名が必要であるが、一神教の世界では、そのようなことはない。アッラーというのは、特定の神の名ではなく、宇宙の創造者であり支配者である神そのものを意味し、イスラム（正しくはアラビア語でイスラーム）は、このアッラーへの絶対的服従のことである。その限りでイスラームは、同じセム族の一神教であるユダヤ教・キリスト教の伝統を継承する。

人類の祖アダムに始まり、アブラハム・モーセを経てイエスに至る一連の預言者の名は、「コーラン」に記され、これ等の預言者を信じることも、イスラムの信仰の一部とされている。だが、世界のあ

らゆる宗教の信仰告白のうち最も簡潔なものとしてされるイスラムの信仰告白に、

「神は唯一にして、マホメットは神の使徒なり」とあるように、ムスリムは神が唯一であることだけでなく、マホメットが、その神によって地上に遣わされた預言者であることを信じ、マホメットの教えに従って来世の救済を求める。しかも、正統派イスラムの信仰によれば、マホメットは最後の預言者であり、神はマホメット以後、いかなる預言者をも地上に遣わしたことはないといわれる。

シャリーアと啓典の母体

イスラムは、マホメットによって初めて唱え出されたが、イスラムそれ自体の考えからすれば、イスラムは天地・人類の創始以前から厳として存在していた。神は天地と人類、日月星辰、山川草木、動物と植物など宇宙の万物を創造し、自然には従うべき秩序、人類には守るべき規範を授けた。この規範をシャリーアといい、神への絶対的服従は具体的には、シャリーアへの絶対的服従であり、現世でシャリーアに従うものには、来世で永遠の生命が保証される。

マホメット以前にも、神は多くの預言者を地上に遣わしたが、特にモーセには「タウラー」（旧約聖書、特にモーセ五書）、イエスには「インジール」（新約聖書、特に福音書）を授け、人々にシャリーアを教えようとした。しかし、ユダヤ教徒もキリスト教徒もシャリーアに背き、そればかりか、天なる神のかたわらに大切に保管された石碑に刻まれた「啓典の母体」のヘブライ語版である「タウラー」、ギリシア語版である「インジール」は、いずれも不完全なものであった。そこで神は、最後の預言者としてマホメットを地上に遣わし、「啓典の母体」に最も忠実なアラビア語版である「コーラン」を彼に授け、シャリーアをその完全な形で人類に伝えさせた、とするのが「コーラン」の教えであり、ムスリムはこのことを堅く信じて疑わない。

シャリーアの支配

六三二年、マホメットは八十名ほどのムスリムを率いて、メッカからメディナに移り住んだ。この移住をヒジュラとい、この六三二年が、その後、現在までイスラムの正式の暦とされるヒジュラ紀元の元年となる（ちなみに、一九七九年十一月二十一日は、ヒジュラ紀元一四〇〇年一月一日である。）

ヒジュラはマホメットに、メッカからの移住者とメディナのムスリムとによって構成される共同体「アッラーを究極の主権者、預言者マホメットをその地上における代理人と認めるムスリムの信仰共

同体」をメディナで地上に建設することを可能にした。この信仰共同体は、アラビア語でウンマとよばれる。当時、多神教の世界であったアラビア半島において、ウンマは、現実の地上においてシャリーアの支配する唯一の場であり、文字通りイスラムの「神の国」であった。この神の国こそ、のちにイスラム帝国として結実するイスラム国家の最初の核であり、帝国の最盛期はもちろん、現在に至るまで、マホメットのウンマはつねに全世界のムスリムの理想の政治であり続けた。そこでは富めるものも貧しいものもなく、信者はすべて神のもとに平等であり、預言者は神の啓示に従って人々を導き、信仰と政治との乗離はなかった。中世はもちろん近代においても、イスラムの政治・宗教運動に一種の復古主義的傾向が顕著に認められるのは、このような理由からである。

神の啓示の記録「コーラン」は、言葉を変えればシャリーアの記録であり、その点、本質的にイスラエル民族の歴史である「タウラー」、およびイエスの伝記である「インジール」と「コーラン」との違いは明らかである。それは神とともに永遠な神のロゴスであり、ムスリムにとって「コーラン」の神聖性は絶対に犯すことはできない。たとえ、それがいかに残酷であろうと、「コーラン」で定められた以上、盗みをはたらいたもの両手は切断されなければならないといわれるのは、そのためである。

全仏の理事会開く

54年度決算など承認

全仏理事会は、五月二十四日午前十一時より、東京・芝の明照会館（浄土宗）にて開催。齋藤理事長侯珍のあと、議事録署名委員を選出、昭和五十四年度事業報告などについて審議した。

議案第一号「昭和五十四年度事業計画について」

議案第二号「昭和五十四年度歳入歳出決算について」

議案第三号「全仏センター設立準備委員会について」

報告事項①「機構改革特別委員会中間答申と同和特別委員会の現況報告」

報告事項②「ルンビニ復興計画ならびに第十三回WFB大会について」

報告事項③「専門委員改選について」

報告事項④「世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会常務委員について」

報告事項⑤「第二十七回全日本仏教徒会議について」

報告事項⑥「その他」（次号報告）

54年度の事業報告

各種仏教運動の
実践 育成など

1、加盟団体相互の連絡・提携および

親睦

4・6 仏教鎌仰会花まつり出席

5・15 監査会

18 全日仏青総会出席

28 理事会

7・2 長岡・鳴門仏教会姉妹締結式

6 仏教鎌仰会お盆まつり出席

22 孝道教団大統領一周忌参列

9・4 長野県仏教徒大会出席

9・18 全日仏婦例会出席

25 浅草寺首首本葬参列

28 大阪府仏三十周年記念大会出席

10・3 埼玉県仏教徒大会出席

12 東京都仏理事会出席

19 真言宗智山派管長晋山式参列

20 千葉県仏役員会出席

11・6 財務部長会議（東京）

8 全日仏婦大会出席

9 財務部長会議（京都）

12 宗務総長会・常務理事会

12 国際仏教興隆協会十周年式典

27 常務理事会

12・21 機構改革特別委員会

1・12 埼玉県仏新年会出席

25 評議員会・理事会

25 全仏新年懇親会

2・12 機構改革特別委員会

2、仏教化運動の総合的企画および
促進

毎月一回「全仏」誌発行

「花まつりポスター」等の普及

6・26 仏教文化会議運営委員会

8・18 文化専門委員会

9・13 「仏教徒のつどい」企画会議

29 第12回日本仏教文化会議

12・2 仏教徒のつどい

3・12 文化専門委員会

3、諸官庁および関係諸団体との連絡

4・19 日宗連理事会

5・24 WCRP日本委員会出席

30 日宗連理事会

7・31 " "

8・21 文化庁と懇談会出席

9・4 日宗連・特許庁懇談会出席

20 日宗連理事会

10・12 文化庁包括宗教法人等管理者研

究協議会出席

22 日宗連理事会

1・31 " "

2・11 仏英研スピーチコンテスト出席

3・6 文化庁包括宗教法人等管理者研

究協議会出席

7 日宗連理事会

4、各種仏教運動の実践および育成

5・7 茨城大会打ち合せ

6・28 組織専門委員会

7・9 茨城大会準備会

8・2 " "

9・4 関東甲信越静ブロック会議

10・4 茨城大会実行委員会

9 " "

10・14 都道府県仏教会代表者会議

15 第26回全日本仏教徒会議茨城大

会

11・28 組織専門委員会

12・12 同和特別委員会

1・16 仏教センター設立準備委員会

18 同和特別委員会

30 国際専門委員会

2 仏教センター設立準備委員会

23 四国ブロック会議

3・7 同和特別委員会

26 組織専門委員会

5、各国のWFBセンターおよび各国

仏教団体との連絡

12・13 14 WFB執行委員会出席

12・14 カンボジア難民救助連絡会議

6、仏教および仏教徒による国際親善

および文化交流の促進

6・10 スリランカ大統領来日歓迎打ち

合せ

25 " "

8・20 スリランカ大統領歓迎準備会

9・3 " 実行委員会

12 " 増上寺参拝

13 " 歓迎会開催

13 " " "

10・22 日・タイ交流の翼（26日まで）

22 F・ライダー氏来日懇談

11・7 日華仏教文化交流大会出席

昭和54年度財団法人全日本仏教会歳入歳出決算書

歳入 予算額 金52,800,000円 決算額 金52,679,047円

歳出 予算額 金52,800,000円 決算額 金50,096,592円

歳入歳出決算剰余金 金 2,582,455円

監査の結果証憑も完備し、収支が適正に行われていたことを認めます。

昭和55年5月15日 監事 船口暉子 ㊟

監事 植松 威 ㊟

監事 岩脇宏信 ㊟

歳入の部

項 目			予 算 額	収 入 済 額	対 子 算	
款	項	目			収 入 超 過 額	収 入 未 済 額
1. 負 担 金	1. 各宗派負担金		48,300,000	46,386,000		1,914,000
			43,172,000	42,206,000		966,000
	2. 各団体負担金		5,128,000	4,180,000		948,000
			200,000	0		200,000
	2. 寄 付 金		700,000	1,604,000	904,000	
	3. 未納徴収金		800,000	780,600		19,400
4. 基金果実		800,000	800,714	714		
5. 雑 収 入		2,000,000	3,107,733	1,107,733		
6. 繰 越 金						
歳 入 合 計			52,800,000	52,679,047		120,953

歳出の部

科 目			予 算 額	支 出 済 額	○増 △減 流 用 額	予 算 不 用 額	付 記	
款	項	目						
1. 事務総局費	1. 人 件 費		35,350,000	34,279,215		1,070,785		
			23,300,000	22,338,518	△ 125,147	836,335		
		1. 職 員 俸 給	10,150,000	9,749,540	△ 125,147	275,313	第2項1目へ流用	
		2. 諸 給	10,850,000	10,338,197		511,803		
	2. 事 務 費	1. 借 館 借 室 費	3. 厚 生 費	1,500,000	1,450,781		49,219	
			4. 退 職 積 立 金	800,000	800,000		0	第1項第1目より125,147流用
				5,050,000	5,175,147	○ 125,147	0	第2項第2目より 1,730流用
				2,000,000	2,330,000	○ 330,000	0	" 3 " 43,069 "
		2. 通 信 費		1,200,000	1,198,270	△ 1,730	0	第2項第1目へ流用
				300,000	256,931	△ 43,069	0	" " "
				500,000	376,631	△ 123,369	0	" " "
	3. 旅 費		300,000	294,700	△ 5,300	0	" " "	
			500,000	484,400	△ 15,600	0	" " "	
			250,000	234,215	△ 15,785	0	" " "	
								" " "
4. 関西事務局費	5. 渉 外 費		2,300,000	2,184,826		115,174		
			1,700,000	1,700,000		0		
			3,000,000	2,880,724		119,276		
			3,450,000	3,374,956		75,044		
			1,350,000	1,303,494		46,506		
2. 総務局費	1. 会 議 費	1. 理 事 会 費	400,000	395,141		4,859		
		2. 評 議 員 会 費	150,000	146,900		3,100		
		3. 各 種 委 員 会 費	300,000	272,630		27,370		
		4. 諸 会 議 費	500,000	488,823		11,177		
3. 組織局費	2. 共 通 事 項 処 理 費	3. 調 査 研 究 費	1,800,000	1,779,232		20,768		
			300,000	292,230		7,770		
			3,900,000	4,209,860	○ 309	0		
4. 国際文化局費	1. 組 織 強 化 費		3,500,000	2,923,155	△ 576,845	0		
		1. 組 織 強 化 費	1,000,000	490,890	△ 509,110	0	第2項へ509,110流用	
	2. 時 局 対 策 費		2,500,000	2,432,265	△ 67,735	0	第2項へ67,735 "	
			400,000	1,286,705	○ 886,705	0	第1項第1目より509,110流用	
			8,000,000	7,350,800		649,200	第1項第2目より67,735 "	
5. 雑 費	1. 国 際 運 動 費		3,000,000	2,622,702		377,298	第6款より309,860充当	
		1. W F B 関 係 費	1,300,000	991,472		308,528		
	2. 文 化 会 議 費		400,000	389,800		10,200		
		2. 文 化 会 議 費	1,300,000	1,241,430		58,570		
	3. 教 化 費		1,200,000	936,855		263,145		
		1. 文 化 会 議 費	900,000	636,855		263,145		
	4. 機 関 紙 発 行 費		300,000	300,000		0		
		2. 紀 要 作 成 費	300,000	297,100		2,900		
	6. 子 備 費		3,500,000	3,494,143		5,857		
			100,000	96,531		3,469		
歳 出 合 計			52,800,000	50,096,592	△ 309,860	904,910	第3款第2項へ 309,860充当	

海外布教の現況と展望

②

日蓮宗

意欲的な開教布教

日蓮聖人の直弟子・六老僧蓮華回開聖日持聖人を開教の先駆者にしたがく日蓮宗開教布教の歴史は、宗祖の誓願・一天四海皆帰妙法の理想を胸に、多くの有志が世界各地に雄飛している。戦前までは、

米国、中国をはじめ南洋諸島にまで拠点を設置し、妙法宣布に活躍した。戦後は、北米、ハワイ、ブラジルにその重点を置き、現在、盛んに教線拡張を行なっている。

北米開教が中心

北米開教は、一九一四年旭寛成師がその先駆となり、ロスアンゼルスへ教会を創立。布教活動を展開した。ハワイではこれに先だつこと二六年、一八八八年、高木行連師が宗命を体してカバパラに教会を創建し、ブラジルは石本恵明師により一九五二年、管長特命を受けてサンパウロに拠点を設置し、伝道を開始した。現勢は、教会数一七、開教師二六名、信徒数約一万である。他の仏教教団に比べると未だの感がある。現在、北米での開教拠点は、ロスアンゼルス、サンフランシスコ、シヤトル、サクラメント、サンノゼ、ポートランド、ソルトレーク、シ

カゴ、トロント、そしてアンカレッジにそれぞれ教会が存在し伝道活動をしている。西海岸並に東部、中部にも拠点ができれば理想であろう。

日蓮宗は、いま松村春頭宗務総長が開教布教に大きな意欲を燃やしており、就任以来、その振興に力を入れて施策を実行してきた。即ち、開教師の養成、福祉、教化研修、布教にとりくんでいる。財政の援助、布教資料の送付も積極的に進められている。例えば、予算面では、沖縄の布教補助も含めて約七千万を組み、布教資料では、日蓮宗新聞の英字版をはじめ、「信行必携」の英字本の作成、各種布教パンフレット、スライド器材と教材の送付等、開教師の希望にこたえる以上、役立つ布教資料をどんどん送っている。

昨年は護法運動の推進に伴ない、北米、ハワイで画期的な護法統一信行が実施された。この統一信行には金山担当部長自らがおもむき、宗門内の一流の護法講師を送り込んで、宗門の開教布教に対する姿勢を示した。その効果は、各開教地の信徒の熱烈な歓迎と、参加者の感激に如実にあらわれていた。布教資料を送れば、あとは開教師におまかせというのではな

く、本部からの直接の伝道が、時には大きな効果をもたらし、遠く海外にあっても、本部との強い絆の上になつていっているんだという安心感が生れ、宗徒意欲が盛りあがる。

開教師の養成

開教師の養成については、専門委員会により秀れた開教師を派遣するべく検討している。今までは、一世を基盤として布教伝道してきたが、いまや、信徒が二世・三世に代替り

をしつつある。語学の問題、信仰の受けとり方、宗門に対する意識等、充分に考慮した上で、対応できる技能を培っていかねばならないだろう。具体的には日曜学校などを通して次代の信徒養成をはかることも一方法であろう。いずれにしても、人材、教材ともに宗門のバックアップを強化していく方針である。

今後の開教拠点の進出については、韓国、台湾、インドが考えられよう。その足がかりはすでにあるので、大きな希望をもっている。その他、仏教交流については国際親善の面からもすすめる。

さて、日蓮宗では、開教を海外のみとせず、国内も開教の対象として促らえている。最近では団地の林立により、仏教離れが目立っている。いわば、仏教の過疎地帯といつてよからう。そうした団地布教を国内開教ととらえ、新しい布教伝道の分野としての拠点の設置や、伝道車による布教を実施していく方針である。

今度の機構改革により、教化活動と教区単位で実施していくことが宗会で確認されたが、こうしたところにも宗門の開教布教の積極的姿勢がみられよう。



三つの委員会開く

文化専門委員会

全仏の文化専門委員会は、五月十日午後三時より、芝・大門横の玉川で開催された。任期初の専門委員会ということもあり十五名が出席、自己紹介のあと熱心に討議された。

- 一、委員長選出について
真溪義貫氏を再選した。
- 一、文化事業計画について

機関誌「全仏」については、「送付先について一考すべきである」、「もっと個別に出すべきだ」などの意見や、内容面で「高齢者社会、青少年の悩みなどの問題を取り上げたらどうか」、「母号特集を組んでやったらよい」、「イメージチェンジが必要」などの意見があった。

また、文化会議については、「もっと具体的な問題をやるように」、「危機意識（老人、青年、精神など）の再確認など」をやってほしいなどの意見と、「二泊二日の方が良いのではないか」、「会議の成果を宗団に生かせるように」などの希望も述べられた。

- 一、その他
キリスト教でやっている「まだ使用できるものは教会へ」のキャンペーンを仏教もやってはどうかとの意見があった。
- (出席者) 井上日宏、伊藤慶夫、石谷智

国際専門委員会

蕨、岩船至道、門屋大寿、榎原綿逸、白川良純、塩入亮達、島田喜久子、宝田正道、中根専正、真溪義貫、摩尼清之、武藤義一、若林隆光

国際専門委員会は、五月十九日午後一時より、芝の「玉川」にて開催され、安本局長挨拶のあと、新委員の紹介と新しく国際部に入った小峰主事の紹介がなされ議事に入った。

- 一、正副委員長選出について
委員長に柳了堅師、副委員長に西村輝成師を再選、また副委員長に近藤隆敬師を新しく選出した。
- 一、ルンビニ開発計画について

鎌田部長よりルンビニ救済金の進行状況と、五月十六日に行なわれた準備委員会の内容説明があり、百四十億の約八十パーセントを日本に負担してほしいというネパール側の莫大な要求に対し、全仏としてはより幅を拡げた準備委員会で検討する。

- 一、第十三回WFB大会について
大会の概要が説明され、この大会を記念して全仏主催で行なわれるツアーに委員会としてもできる限り協力する。旅行業務は日本交通公社(ビルマ)と千代田トラベル(ネパール)が取り扱うことに

なっている。

- 一、外国人受け入れについて

最近、カナダ、オーストラリアなどから「日本寺院にて長期滞在し、日本僧侶と同じ生活をしたがら仏教の勉強をした」との要請があり、この対処方を協議し、委員会としては外国人の受け入れは各国WFBセンターの推薦状と、条件を確認のうえ対処し、受け入れ寺院には何らかの型で感謝、表彰する方針をとる。

- 一、仏陀暦の促進について
「出席者」柳了堅、西村輝成、村野宣忠、松海弘道、青木孝彰、織内七郎、長田順海、川島宏之

機構改革委員会

第三回機構改革特別委員会は、去る四月二十一日午後一時より、妙心寺花園会館において開催された。

日野事務総長挨拶の後、藤音委員長欠席のため小沢副委員長を座長に選出し議事に入った。まず、中村部長より前回委員会の経過報告があり、引き続き以下の事項について審議がなされた。

- ①前回委員会の継続審議事項について
会長の職務権限について話し合い、会長は象徴であり、法人の責任は理事長にあることを確認、寄付行為中にある「委嘱する」を「認証する」とした方がよいということになり、その他、寄付行為の字句の若干の修正がなされた。引き続き

8ミリカラー・スコープ120分 ¥110,000 本誌読者特別価格 ¥99,000 (昭和37年作)

専用スコープ付高級8ミリ映写機発売中!!
TACNON 808-OM 標準価格 ¥125,000 特別価格 ¥98,000

- お申込みは直接郵便又はお電話で下記へ。※分割頒布も致します。
- お申込み次第発送致します。●代金は現品到着後お送り下さい。

大映映画株式会社映像事業部
東京都港区新橋3-10-9(第5東映ビル7F) 千105 電03(436)3760-3624

寺院用具
浅草通り五鳳会加盟店
株式会社 浪田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)
電話 代表 (841) 4965

会長、副会長の選出の枠を広げるかどうかについて審議がなされ、現在の二年任期を一年任期として枠をもっと拡げ、特に、副会長については宗派だけではなく、異仏、団体にまで枠を広げることとなった。なお、理事長については、理事会において検討することとした。

②事業計画の見直しについて

理事会等において、事業計画を見直しする必要があるという指摘があり、事務局において各局の事業計画について検討した結果を報告、審議がなされた。主に「時局対策部」を新設するかどうかを中心に話し合われたが、今後は時局対策が全仏の中心的事業になるとの見方から、部の設置には異議はなかった。但し、時局対策は総務局で扱うべきだという意見があり、また、部の名称についても考慮を要するという意見があった。

尚、五月に再度委員会を開き、中間答

表紙の写真

念仏行脚

古来、浄土宗における念仏行は、行を難行道と易行道に分ける中、易行道と呼ばれ、曇鸞はその著「往生論註」に「有難有易、陸路歩行則苦、水道乗船」と、それを「歩行」に対して「乗船」ということばで表現している。すなわち易行とは、難行道のいう、衆生より仏へと自行修行して進む実践

中案を理事会に報告する予定である。

事務総局録事(五月)

- 十日 文化専門委員会
- 十二日 局内会議
- 十三日 監査会
- 十六日 ルンビニ準備会
- 十九日 センター設立委員会
- 二十日 機構改革特別委員会
- 二十二日 国際専門委員会
- 二十四日 日宗連理事会
- 二十五日 局内会議
- 二十九日 同和特別委員会
- 三十日 大阪府仏へ

道に対し、他力の本願力によって浄土に往生し成仏せよという「他力による往生成仏の実践道」であり、それが念仏をして易行道と呼ばしめる所以である。それ故に易行道の念仏は、時・場所を簡はず、男女・貴賤・貧富・僧俗・智愚を簡はず、平等に修することができる行である。このような意味においても「念仏行脚」とは以上のことを言った善導の「不問行住坐時節久遠……順彼仏願故」との教えをまことに実践するものといえることができる。

第13回世界仏教徒会議(WFB)タイ大会記念

WFB大会参加と

ビルマの旅

期日 11月21日～28日
費用 338,000円

成田ーバンコクー水上マーケットーWFB大会出席ーラングーンー市内観光(スーレパコダ他)ーパガンー王朝遺跡ーアナンダ寺院ーマンダレーーマンダレーヒルーラングーンーベグーーバンコクー成田

●お問合せは取扱い旅行社へ

主催 全日本仏教会

(取扱い旅行社)

日本交通交社 日本旅行東京中央支店2課
東京都千代田区神田鍛冶町3-3 大木ビル4F
TEL03-257-8421

WFB大会参加と

ネパールの旅

期日 11月21日～30日
費用 345,000円

成田ーバンコクー市内観光(エメラルド寺院・王宮他)ーWFB大会出席ーカトマンズーパイラワールンビニーポカラーチベット部落ーカトマンズー市内観光(クマーリー寺院他)ーバンコクー成田

●お問合せは取扱い旅行社へ

主催 全日本仏教会

(取扱い旅行社)

千代田トラベル
東京都港区南青山5-6-20 千成ビル
TEL03-407-3612

昭和五十五年 六月一日発行
六月号 第二五九号

発行人 日野照護
編集人 安本利正

発行所 財団法人 全日本仏教会

東京都港区芝公園四十七番三
電話〇三(四三七)九二七五